

公益財団法人 日本テニス協会の強化・育成事業

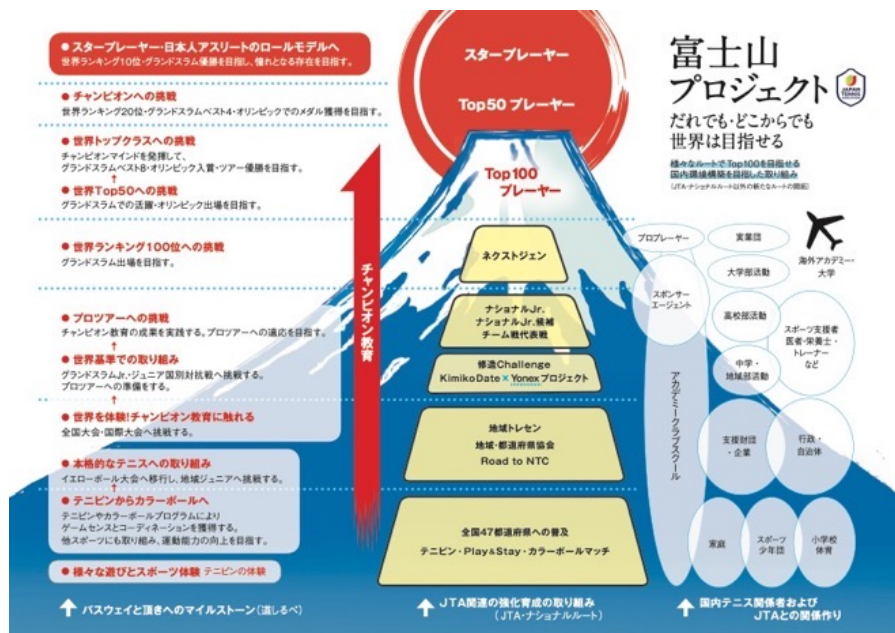
2023年度 活動報告書

2024年9月

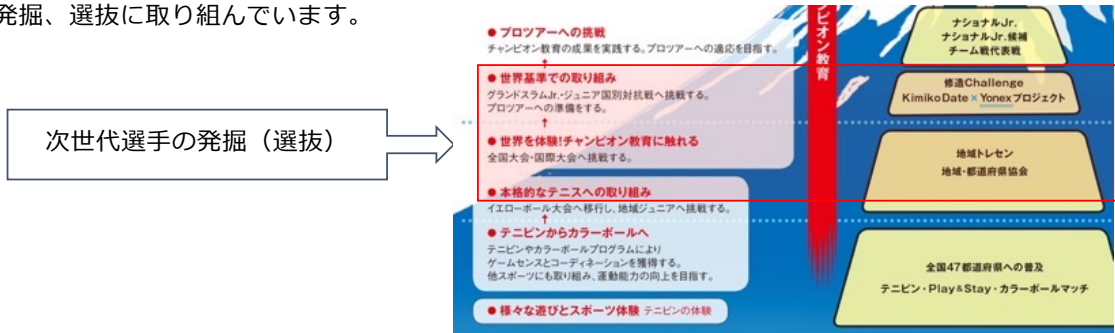
公益財団法人日本テニス協会 強化育成本部

普及育成強化の流れ（日本テニス協会 富士山プロジェクト）

世界ランキングトップ10に入るようなテニスのスター選手は偶然に生まれるものではありません。ジュニアへの普及活動から育成、タレントの発掘、強化に至る流れが整備されていなければ、スター選手を産むことは不可能です。当協会ではそのような「普及」→「発掘・選抜」→「育成」→「強化」に至る流れを、富士山にたとえモデル化しています。当協会の普及育成強化事業は全てこのモデルの中に位置付けられています。



普及活動は日本全国で進めており、多くのキッズ、ジュニアがテニスに触れる機会を提供しています。その中から競技テニスに移行するジュニア選手が多くいるものの、個々の技量、資質は俯瞰的に把握することができません。当協会では、都道府県テニス協会や地域トレーニングセンターの活動を通じ、またRoad to NTCジュニアキャンプ等の主催事業や、ジュニア大会を通じて将来有望な選手の発掘、選抜に取り組んでいます。



国内で開催される国内大会、国際大会も次世代選手発見のための重要な場となっています

国内大会		国際大会
第一生命全国小学生大会	選抜高校	ジャパンオープンジュニア
全国中学生テニス	MUFGジュニア	世界スーパージュニア
ユニクロ全日本ジュニア	RSK全国選抜ジュニア	
全日本ジュニア選抜室内	U-15全国選抜ジュニア	
全国選抜ジュニア	DUNLOP Road to the AO	
高校総体		



※この他に国際テニス連盟が公認するワールドテニスツアージュニア大会が多数開催されています

当協会、地域都府県テニス協会が行っている有望ジュニア発掘（選抜）事業例をご紹介します

■ ナショナルジュニア合宿（候補含む）

未来のエリート候補選手を対象に、国内最高峰の施設であるNTCを中心に、世界を意識しながら長期的な視点で世界基準でトレーニングに取り組む自覚を育むことが目的です。ジュニアの各世代と一緒にトレーニングすること、そして、NTCではトップのナショナル選手も活動していることから、これからの「ありがたい自分」の形成につながるほか、世代を超えた様々な「継承」がなされています。

■ 安藤財団グローバルチャレンジJr.テニス

公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団の支援を受け、富士山プロジェクトの一翼を担うU12世代の発掘、育成を目的としたキャンプを国内3会場で実施し、100名程度の11歳のジュニア選手が参加しています。



2024年度安藤財団グローバルチャレンジJr.テニスの様子

■ 「修造チャレンジ」および「伊達公子xYONEXプロジェクト」

プロテニスプレイヤーの松岡修造さんと伊達公子さんが中心となって実施している次世代ジュニアを対象とした育成合宿です。テニスの技術的側面はもとより、メンタル面や「世界」の意識づけ等も行われる総合的なジュニア育成プログラムです。次世代ジュニアにとっては、二人の経験に触れながら世界基準をより間近に体感できることから、これからの自身の道筋を明確にするのに重要な位置付けとなっています。



KIMIKO DATE × YONEX PROJECTの様子

2023年度強化育成活動の一環として男子及び女子のジュニアを対象に下記のように味の素ナショナルトレーニングセンターにて合宿を行いました。日数は男女合わせて133日間となります

男子

	開始日	日数	人数	目的		開始日	日数	人数	目的
1	4月21日(金)	3	4	クレーでのパフォーマンスの向上、フィジカル、毎日の練習目的の明確化	16	12月1日(金)	3	4	海外に向けてのハードコートでのパフォーマンス、合宿を通じてのチーム行動
2	4月26日(水)	4	4	ジュニアテニスアジアオセアニア予選に向けてクレーでのパフォーマンス向上	17	12月11日(月)	4	4	来年に向けてのフィジカル面の強化
3	4月28日(金)	3	4	クレーでのパフォーマンス向上、フィジカル、毎日の練習目的の明確化	18	12月19日(火)	5	4	来年に向けてのフィジカル面の強化
4	5月26日(金)	3	4	クレーでのパフォーマンス向上、フィジカル、毎日の練習目的の明確化	19	12月27日(水)	3	4	2024年ワールドジュニアアジア/オセアニア最終予選代表選考会
5	6月3日(金)	3	4	クレーでのパフォーマンス向上、フィジカル、毎日の練習目的の明確化	20	1月4日(木)	4	4	フィジカル面の強化
6	6月9日(金)	3	4	クレーでのパフォーマンス向上、フィジカル、毎日の練習目的の明確化	21	1月12日(金)	3	4	クレーでのトレーニング期を兼ねた体力作り合宿
7	6月23日(金)	3	2	クレーでのパフォーマンス向上、ダブルスのフォーメーション	22	2月1日(木)	3	4	クレーでのトレーニング期を兼ねた体力作り合宿
8	6月30日(金)	3	4	クレーでのパフォーマンス向上、ダブルスのフォーメーション	23	2月9日(金)	3	4	クレーでのトレーニング期を兼ねた体力作り合宿
9	7月7日(金)	3	4	クレーでのパフォーマンス向上、チーム戦に向けたダブルス練習	24	2月15日(木)	3	6	ダブルス、シングルの練習マッチ、チーム行動ほか
10	8月1日(金)	5	3	全米オープンジュニア、全日本ジュニアに向けてのハードコート練習	25	2月19日(月)	5	4	クレーコートシーズンに向けての準備、フィジカル面の強化
11	8月8日(火)	4	6	全日本ジュニア及び海外遠征に向けてハードコートパフォーマンス向上	26	2月23日(金)	3	4	長期を見据えたフィジカル作り、ダブルスポジション等戦術指導
12	8月29日(火)	3	4	海外遠征に向けてハードコートパフォーマンス向上	27	3月1日(金)	3	4	長期を見据えたフィジカル作り、ダブルスポジション等戦術指導
13	9月29日(火)	3	4		28	3月11日(月)	5	4	クレーコートシーズンに向けての準備、フィジカル面の強化
14	10月3日(火)	4	1	スーパージュニアに向けての調整とフィジカルトレーニング	29	3月14日(木)	3	4	アジア/オセアニア最終予選最終調整
15	10月20日(金)	3	4	ジュニアデビスカップ世界大会に向けての調整	30	3月20日(水)	3	4	海外遠征に向けてパフォーマンス向上とフィジカル面の強化

女子

	開始日	日数	人数	目的
1	4月22日(土)	2	2	ジュニアBJK杯アジアオセアニア予選に向けたチームビルディング
2	5月29日(月)	4	3	攻撃的なプレーを継続できるフィジカル強化
3	6月15日(木)	4	4	クレーコートでの女子ジュニアの継続的な強化
4	6月23日(金)	3	3	女子ジュニアの継続的な強化、攻撃的なプレーを継続できるフィジカル強化
5	9月26日(火)	4	6	機能的な身体の使い方とストロークメカニズム、東レPPO観戦
6	10月25日(水)	3	2	ジュニアBJK世界大会への事前準備、各個人の課題練習
7	11月22日(水)	4	3	機能的かつ爆発的な力を発揮できるストローク、各個人の課題に特化
8	12月4日(月)	3	6	より爆発的な力を発揮できるように機能的な基本動作他
9	2月13日(火)	3	4	2024年ワールドジュニアAO予選 代表選考会



安藤財団グローバルチャレンジジュニアテニス

将来のスーパースターの発掘と育成を目指して公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団の支援のもと 安藤財団グローバルチャレンジJr.テニスを立ち上げました

目的

ジュニア時代から世界での活躍を意識し、トップアスリートとして求められる資質を身につけるため、国内トップクラスのコーチによるオンコートの指導だけでなくオフコートでも「チャンピオン教育」やU12 世代の世界最高峰の試合出場、海外遠征を通じて将来のスーパースター発掘と育成体制の構築を目指します。「チャンピオン教育」とは真のチャンピオンを目指すために必要な要素（心・技・体・知・徳）をジュニア期から学び、TOP100 その先の TOP50、20、10、チャンピオン誕生の可能性を広げることを狙いといた取り組みです。具体的には「トッププレーヤーが持つマインド」「コンディショニング（栄養、睡眠、体力など）」「表現力」などを学ぶ研修の総称で、第2の錦織圭、大坂なおみの誕生を目指します。



実施内容

参加者	47 都道府県テニス協会の推薦を受けた 11 歳以下の男女選手、計 94 名
実施内容	<p>①国内発掘キャンプ 東京、大阪、地方会場における年 4 回のキャンプを開催</p> <p>②海外派遣（2024 年度実施予定） 1 週間程度の海外遠征、大会出場など国内発掘キャンプを通じて優秀な選手数名を選抜し、日本テニス協会が推薦して海外に派遣</p> <p>* 海外遠征先 JUNIOR ORANGE BOWL（アメリカ）</p>
国内発掘キャンプ	<p>①東京/有明テニスの森 2023年12月22日（金）～24日（日）選手 20～30 名</p> <p>②松山/愛媛総合運動公園テニスコート 2024 年 1 月 6 日（土）～ 8 日（月）選手 20 名前後</p> <p>③大阪/江坂テニスセンター 2024年 2月10日（土）～12日（月）選手 20～30 名</p> <p>④東京/有明テニスの森 2024 年 3 月 27 日（水）～29 日（金）選手 20～30 名</p>



今年最初の合宿は、14歳以下の選手を対象に、昨年9月と同じ千葉の吉田記念テニス研修センターで実施しました。今回は3月末に実施される14歳以下の国別対抗戦「ワールドジュニアテニス」のアジア予選に向けた強化を主な目的として、代表選手3名を含む16名で行いました。今年1月に行われた全豪オープンジュニアで、この合宿への参加経験を持つ坂本怜選手が優勝したこともあり、選手たちも大いにモチベーションを持って参加してくれたことと思います

- 開催日 2024年3月5日（火）から8日（金） 3泊4日
- 内容 松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された14歳以下の男子ジュニア選手16名
- 参加スタッフ 松岡修造 櫻井準人 岩本功 近藤大生 馬場大和（コーチ）
佐藤雅弘（フィジカル） 山下目義（ボディケア）
田中申明（メンタル）／宇井啓・沼尻啓介（サポートコーチ）
- 開催場所 吉田記念テニス研修センター コートサーフェス：ハードコート
- 参加選手

	氏名	カテゴリー	地域		氏名	カテゴリー	地域
1	川口 孝大	U14-2	関東	9	中島 一輝	U14-1	関東
2	川村 准椰	U14-2	関東	10	久野 佑隼	U14-1	関東
3	遠藤 菜吾	U14-2	関東	11	五島 科依	U14-1	関西
4	阿部 煌大	U14-2	四国	12	金田 歩積	U14-1	関東
5	松岡 朔杜	U14-2	東海	13	松村 侑	U14-1	東海
6	安藤 大貴	U14-2	関西	14	安居院 虹斗	U12-2	関西
7	山口 芽輝	U14-2	九州	15	玉木 翔大	U12-2	関西
8	大垣 心太郎	U14-2	関西	16	宇川 開惺	U14-1	関西

■ 実施スケジュール

3/7(木)	内容	場所	3/5(火)	内容	場所
7:00	朝食	ホテルレストラン	13:00~13:30	集合・ミーティング	会議室
8:30~8:50	バスでコートへ移動		13:30~17:00	オンコート練習 ※	テニスコート(インドア2+2面)
9:00~12:00	オンコート練習	テニスコート(インドア2面・アウト4面)	17:30~18:30	夕食	会議室
12:00~14:00	昼食・休憩	会議室	18:30~20:30	ミーティング	会議室
14:00~17:30	オンコート練習	テニスコート(インドア2面・アウト4面)		・松岡(50分) 目標を達成するために	
17:30~18:30	夕食	会議室		・櫻井(60分) 世界を目指すPathway	
18:30~20:30	ミーティング	会議室	20:45~21:00	バスでホテルへ移動	
	・松岡(45分) チャレンジする心(大谷選手らの例から)		3/6(水)	内容	場所
	・佐藤(30分) フィジカルトレーニングの大切さ		7:00	朝食	ホテルレストラン
	・山下(30分) ケガをしないために		8:30~8:50	バスでコートへ移動	
20:45~21:00	バスでホテルへ移動		9:00~12:00	オンコート練習	テニスコート(インドア2面)
3/8(金)	内容	場所	12:00~14:00	昼食・休憩	会議室
7:00	朝食	ホテルレストラン	14:00~17:00	オンコート練習	テニスコート(インドア2+午後2面)
8:30~8:50	バスでコートへ移動		17:30~18:30	夕食	会議室
9:00~12:30	オンコート練習(練習マッチ)	テニスコート(インドア2面)	18:30~20:30	ミーティング	会議室
12:30~13:00	ミーティング	会議室		・松岡(40分) 目標達成シートによる自己分析	
13:00~14:00	昼食	会議室		・櫻井(50分) サバイバル(生き残るために)	
14:00	解散			・田中(30分) 価値観を固定しない	
			20:45~21:00	バスでホテルへ移動	



当協会ではスター選手の輩出を目指し、選抜された有望ジュニアを対象として種々の育成事業を行っておりますが、世界で戦える選手の育成にはジュニア時代からの海外経験が重要なものとなります。

そのため育成事業においては海外派遣事業が中心となります。

海外派遣事業では、主に下記の事業が挙げられます。

■ グランドスラムジュニア大会への派遣及びサポート

グランドスラム大会（全豪、全仏、全英、全米）では、将来のスター選手輩出のため、ジュニア大会（U-18）を本大会に合わせて開催しております。当協会では、これらのグランドスラムジュニア大会へ参加する日本のトップジュニア選手に対して派遣及びコーチ派遣等のサポート事業を行っています。

■ ジュニア国別対抗戦への派遣及びサポート

下記の国別対抗戦へのジュニアチームの派遣とサポートを行っています。ジュニア選手に対してジュニアの時代から世界基準をより身近に感じることができる重要な機会となっています

- ①デビスカップジュニア（男子） ビリージーンキングカップジュニア（女子）
- ②ワールドジュニア国別対抗戦（U-14） ※男女開催

この他に当協会ではU-12からU-15のカテゴリーにて、ヨーロッパ、アジア等にジュニア選手の派遣事業を行っています

■ 2023年度ジュニア国別対抗戦戦績

	期間	場所	結果
デビスカップジュニア			
アジア最終予選	2023年5月8日～13日	シムケント/カザフスタン	決勝で韓国に勝ち1位で予選を通過
決勝	2023年10月30日～11月5日	コルドバ/スペイン	順位決定戦でアルゼンチンに敗れるがブラジルに勝ち11位
ビリージーンキングカップジュニア			
アジア最終予選	2023年5月1日～6日	シムケント/カザフスタン	決勝でカザフスタンに勝ち1位で予選を通過
決勝	2023年11月6日～12日	コルドバ/スペイン	準々決勝にてチェコに敗れるがオーストラリアなどに勝ち5位
ワールドジュニア国別対抗戦（男子）			
アジア最終予選	2023年3月27日～4月1日	クチン/マレーシア	決勝でパキスタンに勝ち1位で予選通過
決勝	2023年8月7日～12日	プロスチェヨフ/チェコ	順位決定戦でペルーなどに勝つが韓国に敗れ10位
ワールドジュニア国別対抗戦（女子）			
アジア最終予選	2023年3月20日～25日	クチン/マレーシア	決勝で韓国に勝ち1位で予選を通過
決勝	2023年8月7日～12日	プロスチェヨフ/チェコ	順位決定戦でスロバキアなどに勝つが英国に敗れ10位



2023年度ワールドジュニア男子チーム



2023年度ワールドジュニア女子チーム

当協会では世界レベルの選手の輩出のため、また国別対抗戦において日本を代表して戦うチーム作りを目的として、ナショナルメンバーを選考しチームを構成しています。 ナショナルメンバーは下記のカテゴリーに分けられ、その選考の公平性のため其々に選考基準を設けています

■ ナショナルチーム

国際総合競技大会（オリンピックなど）や国別対抗戦、グランドスラム大会などにおいて優秀な成績を収めること、ランキング100位以内の選手を恒久的に輩出することを目的としています。ナショナルメンバーはグランドスラム大会の出場選手に定着している選手、ランキングを元に選考します

■ ネクストジェンチーム

ランキングトップ100入りが見込まれる若手選手より選考し、「強化メンバー」「育成メンバー」の2カテゴリーを選考します

■ ジュニアナショナルメンバー

ジュニアナショナルメンバーはU-13からU-18まで、1歳刻みで構成され、①ジュニア国別対抗戦決勝大会ベスト8入りを目指す「Team Work」 ②ITF ジュニア大会から ITF 一般大会の海外経験を積む「Global」 ③一貫した戦略のもと、ジュニアから一般のナショナルメンバーに移行する「Pathway」④世界基準の伸びしろを教育する「International Standard」を戦略として強化育成を行います

■ ワールドユニバーシティゲームズ代表

ワールドシティゲームズの代表として開催年に大学または大学院に在籍、前年に卒業または修了したメンバーより選考します

■ ジュニア国別対抗戦代表選手

ジュニアデビスカップ、ジュニアビリー・ジーンキングカップ、ワールドジュニア（U-14）の代表選手として、ITFジュニアランキング大会や合宿、海外遠征でのパフォーマンスを考慮し、代表監督と選手のホームコーチの協議のもとに選考します

2023年度ナショナル選手一覧

	男子	女子
ナショナルチーム	内田 海智	青山 修子
	内山 靖崇	内島 萌夏
	杉田 祐一	大坂 なおみ
	ダニエル 太郎	加藤 未唯
	西岡 良仁	坂詰 姫野
	錦織 圭	柴原 瑛菜
	野口 莉央	清水 綾乃
	マクラクラン 勉	土居 美咲
	望月 慎太郎	内藤 祐希
	綿貫 陽介	二宮 真琴
ネクストジェンチーム 強化メンバー	島袋 将	内島 萌夏
	清水 悠太	坂詰 姫野
	望月 慎太郎	内藤 祐希
	綿貫 陽介	本玉 真唯
ネクストジェンチーム 育成メンバー	上杉 海斗	石井 さやか
	羽澤 慎治	木下 晴結
	柚木 武	小池 愛菜
		齋藤 咲良
		佐藤 南帆
		佐藤 久真莉
		松田 美咲
		村松 千裕

	男子	女子	
ワールドユニバーシティゲームズ	白石 光	松田 美咲	
	羽澤 慎治	山崎 郁美	
	藤原 智也	永田 杏里	
	田口 涼太郎	リュウ 理沙マリー	
ジュニア ナショナル選手	海外拠点 U-18	石井 さやか	
	海外拠点 U-17	坂本 怜	小池 愛菜
		本田 尚也	クロスリー 真優
U-17	富田 悠太	齋藤 咲良	
		木下 晴結	

	男子	女子
国別対抗戦 決勝大会代表選手 ワールドジュニア (U-14)	阿部 素晴	山本 暁
	渡邊 菜太	石井 心菜
	小林 兼輔	渡辺 葵依
国別対抗戦 アジア/オセアニア予選代表選手 ジュニアデビスカップ (U-16) ジュニアビリー・ジーン・キングカップ (U-16)	神山 宏正	辻岡 史帆
	川西 飛生	山本 暁
	松村 怜	井上 季子



2023年度 ナショナル選手のグランドスラム大会の戦績

一般男子

	全仏オープン	ウィンブルドン	全米オープン	全豪オープン
西岡良仁	シングルス4回戦		シングルス1回戦/ ダブルス2回戦	シングルス1回戦/ ダブルス1回戦
ダニエル太郎	シングルス2回戦	シングルス1回戦	シングルス1回戦	シングルス1回戦
綿貫陽介	シングルス予選2回戦	シングルス2回戦	シングルス1回戦	シングルス1回戦
内田海智	シングルス予選1回戦	シングルス予選2回戦	シングルス予選1回戦	
内山靖崇	-	シングルス予選1回戦		
マクラ克蘭勉	ダブルス1回戦	ダブルス1回戦	ダブルス2回戦	ダブルス1回戦
島袋将		シングルス1回戦	シングルス1回戦	シングルス予選1回戦
望月慎太郎	シングルス予選1回戦	シングルス1回戦	シングルス予選2回戦	シングルス1回戦
清水悠太				シングルス予選1回戦

ジュニア男子

		全仏オープンジュニア	ウィンブルドンジュニア	全米オープンジュニア	全豪オープンジュニア
坂本怜	ジュニアU-18	シングルス2回戦	シングルス3回戦/ ダブルス1回戦	シングルス3回戦/ ダブルス2回戦	シングルス優勝/ ダブルスベスト4
富田悠太	ジュニアU-18				シングルス予選1回戦
田畑遼	ジュニアU-18				シングルス1回戦

一般女子

	全仏オープン	ウィンブルドン	全米オープン	全豪オープン
日比野菜緒	シングルス1回戦	シングルス1回戦	シングルス1回戦	シングルス1回戦
大坂なおみ				シングルス1回戦
内島萌夏	シングルス予選3回戦	シングルス予選2回戦	シングルス予選3回戦	シングルス予選2回戦
本玉真唯	シングルス予選3回戦	シングルス予選1回戦	シングルス予選2回戦	シングルス1回戦
柴原瑛菜	ダブルス2回戦	ダブルス1回戦/ ミックスダブルス2回戦	ダブルス1回戦/ ミックスダブルスベスト4	ダブルス3回戦
穂積絵莉	ダブルス2回戦	ダブルス2回戦	ダブルス1回戦/ ミックスダブルスベスト4	ダブルス2回戦
加藤未唯	ダブルス3回戦/ ミックスダブルス優勝	ダブルス3回戦/ ミックスダブルス1回戦	ダブルス3回戦	ダブルス1回戦
青山修子	ダブルス2回戦	ダブルス1回戦	ダブルス1回戦	ダブルス2回戦
二宮真琴	ダブルス1回戦	ダブルス1回戦	ダブルス1回戦	ダブルス2回戦
坂詰姫野		シングルス予選1回戦	シングルス予選3回戦	シングルス予選1回戦

ジュニア女子

		全仏オープンジュニア	ウィンブルドンジュニア	全米オープンジュニア	全豪オープンジュニア
石井さやか	ネクストジェン	シングルス1回戦	シングルスベスト8/ ダブルスベスト8	シングルス3回戦/ ダブルス2回戦	
齋藤咲良	ジュニアU-17	シングルス2回戦/ ダブルス準優勝	シングルス2回戦/ ダブルスベスト8	シングルスベスト8/ ダブルス準優勝	シングルスベスト8/ ダブルスベスト4
木下晴結	ジュニアU-17	シングルス2回戦/ ダブルスベスト8	シングルス1回戦/ ダブルスベスト8	シングルス1回戦/ ダブルスベスト4	シングルス2回戦/ ダブルス2回戦
小池愛菜	ジュニアU-17	シングルス2回戦/ ダブルスベスト4	シングルスベスト8/ ダブルスベスト8	シングルスベスト8/ ダブルス2回戦	シングルスベスト4/ ダブルスベスト4
クロスリー真優	ジュニアU-17	シングルスベスト8/ ダブルス1回戦			
園部八奏	ジュニアU-16				シングルス1回戦/ ダブルス2回戦

味の素ナショナルトレーニングセンターは独立行政法人日本スポーツ振興センターが運営し、国際競技力の総合的な向上を図るハイパフォーマンスサポートセンターです。テニスにおいては有明コロシアム、有明テニスの森会場と同サーフェスのハードコート2面、全仏オープンテニス会場（ローランギャロス）と同サーフェスのクレーコート(赤土)2面の計4面を備えています。当協会の強化育成活動のセンター施設であり、選手強化はもとより強化育成活動の中央の拠点として強化育成ノウハウの開発と集積が行われています。

1. ナショナルチームの強化と世界のトップ選手の輩出
2. 次世代をになうジュニアの教育 (JOCエリートアカデミー)
3. テニスの技術、指導育成に係わるノウハウの総合的な集積
4. 集積されたノウハウの全国に向けての発信と地域の支援
5. 異種競技との交流 (クロストレーニング)



富士山プロジェクト事業

上述の味の素ナショナルトレーニングセンターに対応する形で全国に、トレーニングセンターが整備されており、地域における強化育成活動の拠点となっています。特に有望ジュニアの発掘はそれぞれの地の育成活動を通じて行われており味の素ナショナルトレーニングセンターからは地域へ随時コーチ（ナショナル、フィジカル）派遣がされており、連携をとっての育成活動を展開しています。

また、毎年情報伝達講習会がナショナルコーチを派遣し開催されており、世界レベルの情報の伝達により、地域のジュニア、コーチへのモチベーションに結びついています。

富士山プロジェクト概念図



2023年度情報伝達講習会予定

開催地域	日程(開始日)	～	日程(終了日)	会場
北海道	2023年9月30日(土)	～	2023年10月1日(日)	北海道: PLACE OF SPORTS NEO (札幌市)
東北	2023年9月16日(土)	～	2023年9月18日(月)	山形県: チェリーナ寒河江
北信越	2023年11月10日(金)	～	2023年11月12日(日)	長野県: 扇子田運動公園 (松本市)
関東	2024年1月6日(土)	～	2024年1月8日(月)	千葉県: アポロコーストテニスクラブ
東海	2023年12月10日(日)	～	2023年12月11日(月)	岐阜県: 岐阜メモリアル 長良川テニスプラザ
関西	2023年10月28日(土)	～	2023年10月29日(日)	兵庫県: プルボンビーンズドーム
中国	2023年12月2日(土)	～	2023年12月3日(日)	広島県: 三好運動公園テニスコート
四国	2024年1月6日(土)	～	2024年1月8日(月)	高知県: 高知市総合運動場テニスコート
九州	2024年10月21日(土)	～	2024年10月22日(日)	福岡県: 博多の森テニス競技場



デビスカップは、男子テニスの国別対抗戦で、世界最古かつ最も権威のある大会の一つです。1900年にアメリカとイギリスの間で始まり、現在は世界各国が参加しています。大会は毎年開催され、各国代表チームがシングルスとダブルスの試合を通じて対戦します。勝利国はデビスカップを獲得します。大会はグループステージとノックアウト方式で進行し、世界のトップ選手たちが国の名誉をかけて競い合う重要なイベントです。

男子国別対抗戦 デビスカップ			
歴史	1900年より開催されている伝統ある男子の国別対抗戦。2022年で142カ国（チーム）が参加している。2019年より試合方式を変更しながら、現在に至る。		開催月
大会の構成	ファイナルズ ファイナル8	グループステージを勝ち上がった8チームによるトーナメント	11月
	ファイナルズグループステージ	ファイナル予選勝者12チームと前年優勝者等4チームで戦う。4グループに分かれ、上位2チームのベスト8以上は、1箇所1週間での集合開催であるファイナル8に進む。	9月
	ファイナル予選	ステージⅠ勝者と前年度ファイナルステージ出場者12チーム（※）により12対戦を行い、勝者はファイナルズへ、敗者はグループⅠに	2月
	ワールドグループⅠ	24チームにより12対戦が行われ、勝者はファイナル予選に敗者はワールドグループⅠプレーオフに	9月
	ワールドグループⅠプレーオフ	グループⅠ敗者とグループⅡ勝者によるプレーオフ。12対戦で勝者はグループⅠに敗者はグループⅡに	2月
	ワールドグループⅡ	24チームにより12対戦が行われ、勝者はグループⅠプレーオフに、敗者はグループⅢへ	9月
開催地	ファイナル予選、プレーオフ、ワールドグループⅠ、Ⅱはホーム/アウェイ方式		
	ファイナルズおよびグループⅢ、Ⅳ、Ⅴは集合開催		
※前年度ファイナルステージ出場者から前年度の優勝、準優勝及びワイルドカード2者を除いた12チーム			

ワールドグループⅠプレーオフ

日本 対 レバノン	対戦結果
開催日：2024年2月2日、3日	○西岡 6-3 6-4 HABIB
開催地：エジプト カイロ	総貫 2-6 6-7 HASSAN ○
監督：添田豪	○西岡・総貫 7-5 7-5 HABIB・HASSAN
選手：西岡良仁 総貫陽介 望月慎太郎	○西岡 1-6 7-6 6-4 HASSAN
坂本怜 上杉海斗	

レバノンに 3-1で勝利



ワールドグループⅠ

日本 対 コロンビア	対戦結果
開催日：2024年9月14日、15日	○西岡 6-3 6-4 SORIANO BARRERA
開催地：日本 有明コロシアム	○錦織 6-4 6-4 MEJIA
監督：添田豪	望月・総貫 7-6 2-6 3-6
選手：西岡良仁 錦織圭 望月慎太郎	RODRIGUEZ・BARRIENTOS ○
ダニエル太郎 総貫陽介	○西岡 7-5 6-4 MEJIA

コロンビアに 3-1で勝利



ワールドグループⅠ コロンビア戦に勝利した日本は2025年に開催されるファイナル予選に進出

ビリー・ジーン・キングカップは、女子テニスの国別対抗戦で、以前はフェドカップとして知られていました。大会は1963年に設立され、現在では世界中の国々が参加しています。大会は毎年開催され、シングルスとダブルスの試合を通じて各国代表チームが対戦します。勝利国はビリー・ジーン・キングカップを獲得します。この大会は女子テニス界で最も権威のある国際大会の一つで、世界のトッププレイヤーが自国の名誉をかけて競い合う重要なイベントです。

女子国別対抗戦 ビリー・ジーン・キングカップ			
歴史	1963年より国際テニス連盟50周年を記念して、女子の国別対抗戦フェデレーションカップとして始まり、2021年より名前をビリー・ジーン・キングカップと改称した。		開催月
	ファイナルズ	ファイナル予選の勝者8チームと前回優勝、準優勝等のシード国4チームによるトーナメント	11月
	ファイナル予選	16チームにより9対戦を行い、勝者はファイナルズへ、敗者はプレーオフに進む	4月
	プレーオフ	4月のファイナル予選敗者とグループI上位チームによるプレーオフ、勝者はファイナル予選へ	11月
	グループI	アメリカ/アジア・オセアニア/ヨーロッパ・アフリカの3地域で戦われ、上位チームはプレーオフに、下位チームはグループIIへ	4月
	グループII	アメリカ/アジア・オセアニア/ヨーロッパ・アフリカの3地域で戦われ、上位チームはグループIへ進む	4月
開催地	ファイナル予選、プレーオフはホーム/アウェイ方式		
	ファイナルズおよびグループI、IIは集合開催		

アジア/オセアニアグループI	結果
開催日：2023年4/10～15日	日本は韓国、タイ、ウズベキスタン、インド、中国
開催地：ウズベキスタン タシケント	に勝利し6カ国中1位で11月に行われるプレーオフ
監督：杉山 愛	に進出
選手：内島萌夏 本玉真唯 坂詰姫野 穂積絵莉 青山修子	



日本 対 コロンビア	結果
開催日：2023年11/10、11日	本玉 4-6 4-6 OSORIO ○
開催地：有明コロシアム	○日比野 6-2 6-4 LIZARAZO
監督：杉山 愛	日比野 2-6 0-6 OSORIO ○
選手：日比野菜緒 本玉真唯 坂詰姫野	○本玉 6-2 6-2 HERAZO
柴原瑛菜 青山修子	○青山・柴原 7-5 6-2 LIZARAZO・OSORIO

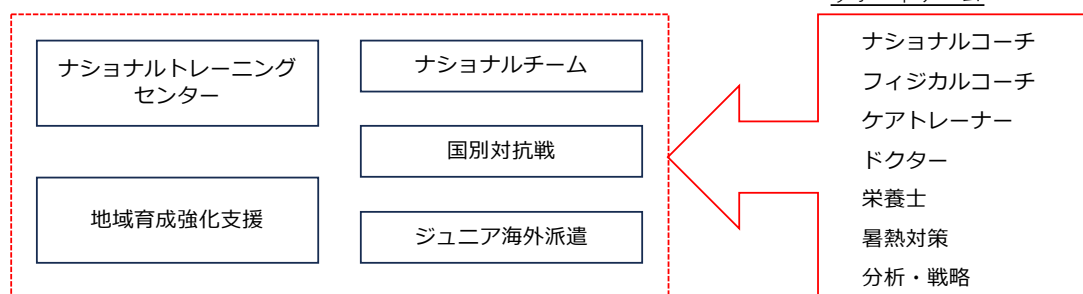


日本 対 カザフスタン	結果
開催日：2024年4/12、13日	○日比野 6-1 6-0 DANILINA
開催地：有明コロシアム	○大阪 6-2 7-6 PUTINSEVA
監督：杉山 愛	○日比野 6-4 3-6 7-6 PUTINTSEVA
選手：日比野菜緒 本玉真唯 大坂なおみ	青山・柴原 6-7 6-3 9-11
柴原瑛菜 青山修子	DANILINA KULAMBAYEVA ○

カザフスタンに勝利した日本は11月12日～20日にマラガ（スペイン）で開催されるBJK杯ファイナルに出場する大会は12チームによるトーナメントとなり、日本は1回戦でルーマニアと対戦する。

強化・育成に関わる事業、並びにナショナルチーム活動は、選手とコーチだけで成り立っているわけではありません。コーチはもとより、ドクター、栄養士のほか、分析や戦略策定、暑熱対策等をサポートするスタッフの存在によって、選手は年間を通じてツアーを転戦することができ、効果的な強化育成活動が可能となります

強化育成活動



■ ナショナルコーチ

ナショナルメンバーおよびネクストジェンメンバー個々へのオンコート指導（技術指導・戦術・分析）およびオフコート指導（年間計画の立案・出場大会の選定等、アスリートとしての過ごし方や考え方等の人間教育）について選手のプライベートチームと連携しながら助言や直接的指導を行っています。主にオリンピック、グランドスラム、国別対抗戦における帯同のほか、個人遠征への帯同を実施しています。

■ フィジカルコーチ

ナショナルメンバーおよびネクストジェンメンバーの身体能力の向上およびピーキング等のコンディションの向上維持に関わる事項（体カトレーニング・障害予防・栄養指導・リカバリー・睡眠等）について、選手のプライベートチームおよびケアトレーナーと連携しながら助言や指導を行っています。主にグランドスラム、国別対抗戦および個人遠征への帯同のほか、全国トレセンやJTA情報伝達講習会、Road to NTC等での指導に当たっています。

■ ケアトレーナー

ナショナルメンバーおよびネクストジェンメンバーのコンディションの維持・回復に関わる事項（リハビリテーション、鍼灸・マッサージ・物理療法（超音波等）等）について、選手のプライベートチームおよびドクターやフィジカルコーチらと連携しながらサポートに従事しています。主に、オリンピック、グランドスラム、国別対抗戦に帯同するほかNTCにおいて活動しています。

■ ドクター

ナショナルメンバーおよびネクストジェンメンバーの障害に対しての診断、治療、および早期復帰を目指したリハビリテーションの処方等を実施しています。主に国別対抗戦に帯同し、ケアトレーナーやフィジカルコーチと連携し活動を行うほか、常時、選手の健康や障害相談等を実施しています。

■ 栄養士

栄養知識と食の専門家である管理栄養士は、主に、ネクストジェン強化選手の食事調査並びに栄養指導に当たっている。NTCでの介入指導や普段の遠征時における遠隔指導を実施しています。

■ 暑熱対策

地球温暖化から地球沸騰化といわれる現代において、テニスは暑熱環境下での持久性運動となるため、コンディションの維持が非常に難しくなっています。熱中症や脱水による痙攣を防ぐ対策のほかパフォーマンスを低下させずに最適なコンディションを保つための対策（アイスバス・アイスベスト等の外部冷却、冷たい飲料水やアイススラリー等の内部冷却等）の実施、指導をオリンピックや国別対抗戦時に実施しているほか普段の遠征時のための情報提供を実施しています。

■ 分析・戦略

データ・サイエンスに関する技術革新が著しい昨今、ゲーム中の様々なパフォーマンスを分析し自身のパフォーマンス向上や対戦相手のスカウティングに活用しているプレーヤーが増加しています。本ナショナルチームでは、ナショナルコーチと連携し、サポート対象選手の試合はもちろん、ライバル選手となるトップレベル選手の傾向等を把握し活用しています。現在、パリ五輪に向けた事前分析に取り組んでいます。

■ 特定寄附金の募集に関わる募金目論見書

2023年度においては理事会にて承認された下記の「特定寄附金の募集に関わる募金目論見書」に従い募集を行いました。

募集総額：30,000千円

募集期間：2023年4月1日～2024年3月31日

募集対象：2024パリオリンピックでのメダル獲得を目指した特別強化事業

イ) 男子、女子共に国内外での遠征や合宿での特別強化活動

ロ) オリンピックに向けての特別強化活動

ハ) 富士山プロジェクトによる次世代を担うジュニア、ネクストジェン（ユース）への継続的な強化育成

募集理由：上記で展開する継続的な強化事業の円滑な推進に資するため

資金使途：当該事業経費（事業内管理経費を含む）に充当する。

■ 寄附募集結果と利用

2023年度においての強化育成事業に係る寄附金収入は2,837,000円でした。

寄附金収入と期末残高

前期期末残高	2023年度の寄附金収入	2023年度の寄附金使用	当期期末残高
59,765,532	2,837,500	11,247,996	51,355,036

寄附金の利用 強化育成プロジェクトでは下記の各大会における選手サポートに寄附金を使用しています。

スター選手の輩出、日本テニスの発展のためには、従来から行っている強化・育成活動を途切れることなく継続し、かつ、その「時」に見合った活動を行わなければなりません。そのためには皆様からの浄財のご提供、協賛へのご理解が必要と考えております。ご興味のある事業がございましたら、日本テニス協会までご連絡お願いいたします。

